

一人1台端末を活用したり、演じたりする活動の指導過程モデル

	指導過程	○学習活動	・指導上の留意点	一人1台端末の活用
一次 問いをもつ	1 課題把握	○学習の進め方を捉え、学習の見通しをもつ。	・単元全体の学習の流れを示す。	
	2 一人読み	○本文を読み、内容の大体を捉える。 ○初発の感想を書く。	・心に残ったことや、考えたい問いについて書くよう指示する。	タブレット端末 (付箋機能) <b>A</b>
	3 考えの共有	○初発の感想を読み合う。 (自分のグループ及び他のグループ)	・自分の感想との共通点や相違点を考えながら読むよう指示する。	タブレット端末 (付箋機能) <b>A</b>
	4 問いをもつ	○初発の感想から考えたい問いを整理して、単元を通して考える問いをもつ。	・中心人物に注目できるように分類する。	タブレット端末 (付箋機能) <b>B</b>
	5 振り返り	○めあてに対する振り返りをする。	・単元を通して考えたい問いをもてたか確認する。	タブレット端末 (文書入力)
二次 解決する	1 課題把握	○中心人物の気持ちが大きく変化したことについて考えていくことを確認する。	・物語全体の場面の移り変わりを確認する。	
	2 一人読み (1回目)	○中心人物の気持ちが想像できるところに線を引き、想像したことを書き込む。	・行動や会話等から気持ちが想像できる叙述に着目するよう促す。	
	3 演じる活動 (考えの共有)	○具体的に想像するために、演じる活動を行う。(D)ロールプレイ・Eインタビュー・F静止画)	・登場人物等になってみて、考えたことを共有するよう指示する。 ・静止画を撮りためる。	タブレット端末 (カメラ機能) <b>C</b>
	4 一人読み (2回目)	○登場人物等になってみたことで、具体的に想像できたことを書き込む。	・1回目と色を変えて書き込むよう指示する。	
	5 振り返り	○めあてに対する振り返りをする。	・登場人物等になってみたことで想像できたことに着目させる。	タブレット端末 (文書入力)
三次 感想や考えをもつ	1 課題把握	○物語を読んで考えたことを文章にまとめ、読み合うという課題をつかむ。	・これまで撮りためた静止画も参考とするよう促す。	タブレット端末 (カメラ機能) <b>C</b>
	2 一人読み	○初発の感想を振り返りながら、もう一度叙述に戻り考えたことを整理する。	・中心人物の気持ちの変化に着目するよう助言する。	タブレット端末 (付箋機能) <b>A</b>
	3 考えの共有	○物語を読んでつかんだ中心人物の変容と自分の考えを共有する。	・初発の感想と比べて、読みが深まったか確認する。	タブレット端末 (付箋機能) <b>A</b>
	4 一人読み	○最も心に残ったことを自分の言葉で表現する。	・心に残った叙述も引用するよう指示する。	
	5 振り返り	○めあてに対する振り返りをする。	・単元全体を通して学んだことを振り返るよう指示する。	タブレット端末 (文書入力)

「一人1台端末活用」の手引き

**A** 感想や考えたことを共有する

タブレット端末（付箋機能）

1班  
初発感想（黄色）

初発の感想をグループ毎に1枚のシートで共有します。

2班  
初発感想（黄色）

他のグループの感想も手元のタブレットで見られるので、自分の考えと比べることができます。

手元のタブレットで学級全員の感想を共有  
感想や考えをもつことに生かす

**B** 問いをもつことに活用する

タブレット端末（付箋機能）

1班  
疑問（緑）

物語を読んで疑問に思ったことをグループ毎に1枚のシートで共有します。

2班  
疑問（緑）

他のグループの疑問も手元のタブレットで見られるので、自分の疑問と比べることができます。

手元のタブレットで学級全員の疑問を共有  
学級全体で解決したい「問い」に練り上げる

**C** 静止画を撮り登場人物の変容をつかむヒントとする

タブレット端末（カメラ機能）

場面1

場面2

（例）物語の冒頭

（例）物語の山場

①場面ごとに登場人物の様子がよく分かるような一場面をグループで創作する。  
②タブレット端末のカメラ機能を活用して、静止画を撮る。  
③場面ごとに撮りためた静止画を比較する。

場面の移り変わりとともに変わる登場人物の変容を読み取る際に、撮りためた画像を比較することもヒントとして活用する

「演じる活動」の手引き

**D** ロールプレイ

～自分ではないものになって演じてみる～

【目的】

・登場人物の気持ちや情景を具体的に想像すること。

【準備】

・叙述を読み、登場人物の気持ちや情景が想像できるところを事前に一人読みで押さえておく。  
・全体で「場面」と「登場人物」の設定を押さえておく。  
【教師の役割】

・教師は、読者兼ファシリテーターとなる。

【活動形態】

・2人～6人程度。（一人二役等も可能）

教師は、読者となり物語の叙述を読み上げます。  
児童には、読者の言葉を聞きながら、感じたことや考えたことをつぶやいたり、動いたりしてよいことを伝えましょう。

△△になってみたことで、場面の様子が具体的に想像できたよ。

□□という気持ちになったよ。登場人物の△△も同じように感じていたのかもしれない。

活動後に、登場人物になってみたことで、どのような気持ちが出て、どのようなことを考えたかを尋ねましょう。

【活動後】

・叙述に戻り、登場人物の気持ちや情景で具体的に想像できたことを記述する。  
(予想される児童の反応)

【振り返り】

・登場人物になってみることで、その登場人物の周りで起こることが自分のことのように思えて、気持ちがよく分かるようになった。

**E** 質問コーナー（インタビュー）

～登場人物になって質問したり、答えたりする～

【目的】

・登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。

【準備】

・叙述を読み、登場人物の気持ちについて質問したいことを一人読みで10個程度考えておく。  
・学級全体で全場面の登場人物の様子を押さえておく。  
・一人が登場人物になり、もう一人がインタビューになる。  
【教師の役割】

・教師は、質問のやり取りの例を全体に示し、児童に活動の見通しをもたせる。活動中は、各グループを回り質問が出なかったり、答えられなかったりした児童がいた場合、助言する。

【活動形態】

・2人。

叙述を基に事前に質問を考えておくことで、物語の内容に関連した質問となります。  
登場人物になったまま想像したことを答えることで、登場人物の気持ちをより深く理解することにつながります。

△△の場面ではなぜ△△の行動をしたのか聞いてみたい。

登場人物になって答えることで、そのときの様子が頭に浮かんだ。△△の気持ちも分かったよ。

インタビュー

登場人物

物語の内容に関連していれば、やり取りの中で思い付いた質問をしてもよいです。会話を途切れさせずに続けましょう。

【活動後】

・叙述に戻り、登場人物の気持ちや情景で具体的に想像できたことを記述する。  
(予想される児童の反応)

【振り返り】

・登場人物の気持ちを前の場面のことを思い出しながら答えなくてはならないので、場面の移り変わり結び付けて答えることができた。

**F** 静止画

～止まった状態で、質問に答えて自分の気持ちを語ったり、状況を説明したりする～

【目的】

・登場人物の気持ちや情景を具体的に想像すること。

【準備】

・叙述を読み、登場人物の気持ちや情景が想像できるところを一人読みで事前に押さえておく。  
・全体で「場面」と「登場人物」の設定を押さえておく。  
・登場人物の様子を一枚の静止画に表現するというイメージを全体で共有する。  
【教師の役割】

・教師は、各グループの工夫した点を尋ねて、価値付けを行う。

【活動形態】

・3人～6人程度。

教師は「あなたは誰（何）ですか」「何をしていますかですか」「今、どんな気持ちですか」と尋ねて、各グループを回りましょう。  
友達と協力して一枚の静止画を作るので、演じることが苦手な児童も抵抗なく参加できます。

場面の様子が低くなるように、友達と協力して撮ることが楽しかったよ。

物になってみることで、登場人物の様子を客観的に捉えることができたよ。

登場人物の気持ちを想像してみよう。

【活動後】

・叙述に戻り、登場人物の気持ちや情景で具体的に想像できたことを記述する。  
(予想される児童の反応)

【振り返り】

・登場人物の気持ちや様子が最もよく分かるように、友達と話し合いながら一枚の静止画にすることができた。